

～ 取り組むべき4つの課題 ～

< 1. ストレスの増加 (2位: 74点) >

長引く不況の中、無理をして働くことが多く、職場での人間関係が悪くなってきました。

親は家事や仕事、子供は塾や習い事でともに忙しく、家族単位で何かをする機会が減り、ふれあいの時間が少なく、家族との関係がうまくとれません。まわりのサポートがないため、ストレスが生じます。

< 2. 身体機能の衰え (1位: 77点) >

自覚症状があるというほどではないのですが、老眼や体力等身体的機能が衰えてきており、生活習慣改善の必要性に気づきながらも、なかなか変えられません(5位: 25点)。頭痛、肩こり、めまい等更年期症状がひどい場合(10位: 7点)、家事もスムーズにできず、気力や意欲が低下し、外出できなくなります。

< 3. 生活習慣病の増加 (8位: 13点) >

子供中心の献立(欧米風)で油の消費が多く、カロリーのとれすぎと運動不足のために肥満(4位: 26点)になっており、将来糖尿病になるのではないかと不安です。

自覚症状はあまりなく、検診で高血糖など検査値に異常があると指摘を受けても生活習慣の見直しには、なかなかつながりません。また、治療を受けていても症状になれてしまうと、仕事などを優先し、治療を放置してしまいます。合併症の不安もあります。

仕事をしている時間が長いため家族の生活時間とあわず、食事は不規則で外食も多く、栄養のバランスがとれません。運動する時間、睡眠時間も十分とはいええず、慢性疲労があります(6位: 20点)。突然死の話題も他人事とは思えず不安です。

< 4. 噛めない(硬いものが噛みづらく、冷たいものがしみる)(7位: 16点) >

壮年以降、歯を失う原因のトップは、歯周病です。歯周病が進行すれば歯がぐらついたり、抜けたりして噛める場所も少なくなります。

しかし、歯周病は、管理さえしっかり行えば、進行を食い止めることができます。この世代の口腔管理が、次の世代「高齢者」における健康で、若々しく生活できるための大切な要素の一つです。

噛み合わせの不調は、頭痛、腰痛、ストレスなどの原因になることもあり、大切な問題の一つです。

高齢者世代でめざすゴールと取り組むべき2つの課題

ゴール

高齢者が役割を持ち、安心して暮らせるまち

高齢者が安心して暮らせる（1位：82点）ためには、老化を受け入れ、その中で身体的にも精神的にも健康な生活を送ることが必要です。

高齢者の楽しみの一つには、おいしく食事をとることがあげられます。また、日常生活においては、生きがいを持って地域参加をしていくことが大切です。高齢になると配偶者を失ったりすることで一人暮らしとなる場合があります。しかし、たとえ一人暮らしになっても、世代を越えた地域住民のサポートがあれば、安心して暮らすことができます。

生きがいは、目標を持って日常生活を送ることで生まれてきます（2位：72点）。また、地域での役割を見出し（3位：45点）、自分自身が必要とされていることを確認することが重要です。その中で、地域活動に積極的、自発的に参加することとなります。地域参加への第一歩として、具体的には、行き交う人たちとの挨拶に始まる朝の散歩や、健康体操などがあり、ここから人とのふれあいが生まれます。

地域住民のサポートは、挨拶や地域行事に参加することによって顔見知りとなった地域住民との和から始まります（3位：45点）。また、地域住民も世代を越えてお互いのできないところをカバーしあうことが重要です（7位：10点）。

老化は自然の現象であり、誰もが経験することであると受け入れることから始まります。老化で身体や心が不自由になっても、安全に暮らしていける環境整備が大切です。個人の住まいを始めとして、まわりの人の心くばり、街や道路、交通機関をバリアフリーにすることは、地域に踏み出す機会を増やします（6位：23点）。

～ 取り組むべき2つの課題 ～

< 1. 生活機能の衰え (3位: 45点) >

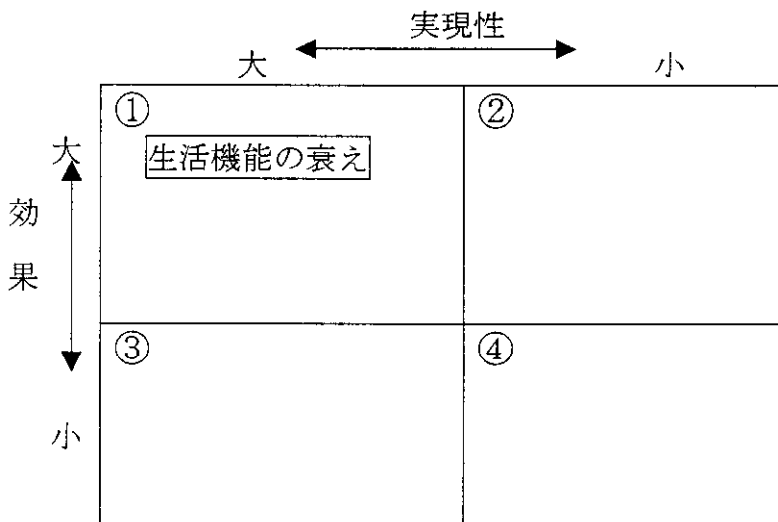
高齢になると老化に伴い、足腰の働きが悪くなり、腰痛や膝関節痛等を持つ人が多くなり(8位: 9点)、立ち居が不自由になる傾向が見られます。そのため、一人での外出が困難になっています。その他、視力、聴力、物忘れ、尿もれ、そして持久力や抵抗力なども低下するため、様々な問題が発生します(10位: 2点)。

< 2. 食べにくかったり(摂食障害)、飲み込みにくくなること(嚥下機能低下)と口の中の衛生状態が悪くなること(5位: 35)>

むし歯や歯周疾患などが原因で口の中の衛生状態が悪くなり、歯の喪失本数が増えてくると、よく噛み、食事を味わって食べることができなくなり、必要な栄養が摂れなくなります。

また、話す、笑う、歌うなどの自然な表現が難しくなると、生き生きとした日常生活に支障をきたします。

～課題の優先順位～



最優先健康課題の実態

実態調査の概要

1) 調査目的

このアンケート調査は、市民の方の日常生活における生活習慣、健康状態、生活状況、健康づくりに対するご意見やご要望を調査することにより、健康指標づくり及び行動計画づくりのための基礎資料とするものです。

2) 調査した各世代の健康課題

- ・子ども世代(むし歯、体力の低下)
- ・若者世代(体力の低下、生活習慣)
- ・壮年世代(身体機能の衰え、虫歯、歯周病)
- ・高齢者世代(生活機能の衰え)

3) 質問項目等についての検討概要

【子ども世代】

- ・乳幼児は保護者への関わりが主体になり、中学生ぐらいになると子ども本人の行動が主になる。
- ・まずは就学前の乳幼児への取り組みを行い、将来は小学生に波及させるという手順で進めたい。
- ・むし歯については永久歯のむし歯予防を考えると4、5歳が対象となる。
乳歯のむし歯予防には1歳半の頃と3歳がポイントとなる。
- ・体力については、遊びの他に食事についても検討したい。

【若者世代】

- ・若者世代はあまり健康に関心を持っていないようだ。
- ・「体力の低下」に対する対策として「運動」があがっているが、若者の体力の低下は運動不足だけではなく、食生活も要因の一つとして挙げられる。
- ・アンケート対象とする年齢階層等について、20代前半から30代にかけては、学生から社会人になり仕事中心の生活になってくる。また結婚や出産等と生活スタイルが大きく変化する自分自身のことがおろそかになる年齢層である。したがって健康面でも様々な問題が潜んでいるのではないか。

【壮年世代】

- ・アンケート対象 40歳～59歳 5% 約1,900人
- ・「身体機能の衰え」と「噛めない」の2点についてアンケートを作成する。

【高齢者世代】

- ・高齢者のうち75歳以上になると介護保険の要支援・要介護の状態になる可能性が高くなる。そのため、その年齢以前の高齢者に健康づくり施策を実施することは高い効果が見込まれるので、高齢者のアンケート対象者を60歳～74歳までとする。

4) 調査時期

平成13年3月

5) 調査方法と対象

- 調査票の発送・回収とも郵送方式により実施しました。
- 調査対象は大牟田市民のうち、住民基本台帳からの無作為抽出としました。
- 抽出条件は次のとおり

【子ども世代】

平成13年3月1日現在、3～6歳の子どもを対象に5%抽出しました。

【若者世代】

平成13年3月1日現在、25歳～35歳の方を対象に5%抽出しました。

【壮年世代】

平成13年3月1日現在、40歳～59歳の方を対象に5%抽出しました。

【高齢者世代】

平成13年3月1日現在、60歳～74歳の方で要支援・要介護認定を受けていない方を対象に5%抽出しました。

○発送数及び回答数は次のとおりです。

	発送数	回答数	回答率
子ども	200	123	61.5
若者	800	304	38.0
壮年	1,900	912	48.0
高齢者	1,400	797	56.9
合計	4,300	2,136	49.7

本人に必要な知識や態度は？

準備因子

- 定期健診ができる歯科医院に、連れて行きたいと思う。
おおいに思う(44.1) 少し思う(44.1)
余り思わない(10.2) 全く思わない(1.7)
- むし歯予防のために、お金はかけるべきだと思う。
確かにそう思う(22.3) そう思う(42.1)
余り思わない(32.2) 全くそうは思わない(3.3)
- 食べる食品や栄養について日頃気をつけている。
気をつけている(25.4) まあまあ気をつけている(63.9)
余り気をつけていない(10.7) 気にしていない(0)
- 嫌いな食品を食べやすくする工夫をしている。
かなりしている(6.6) している(50.0)
余りしていない(35.2) 気にしていない(8.2)
- 甘いものは、子どもの手の届かないところに置くようする。
そうしている(25.6) 大体そうしている(33.9)
余りしていない(30.6) 気にしていない(9.9)
- くずついた時、つつい甘いものを与えることがある。
よくある(2.5) 時々(24.6) 余りない(34.4) 殆どない(38.5)
- 離乳食は段階的に、進める事ができた。
非常にうまくいった(28.6) まあまあうまくいった(63.0)
余りうまくいかなかった(7.6) うまくいかなかった(0.8)
- 子どもを外で遊ばせたいとおもう。
おおいに思う(75.4) 思う(22.1) 余り思わない(1.6) 思わない(0.8)
- その理由 危険、友達がいらない、遊び場がない。(各々2人)
(複数) 遊び方がわからない、病気。(各々1人)

地域、病院、周りの人々に求められることは？

強化因子

- 家族一緒に食事をすると楽しい。
楽しい(73.6) まあまあ楽しい(24.0)
余り楽しくない(2.5) 楽しくない(0)
- あなた以外の人から、甘いものをもらうことがある。
よくある(27.0) 時々ある(54.1)
あまりない(9.0) ほとんどない(9.8)

健康づくりに必要な受け皿とは？

実現因子

- 冷蔵庫の中に、いつも、子どもの好きな飲み物が入っている。
常に入っている(56.2) 時々入っている(30.6)
殆ど入っていない(9.9) 入っていない(3.3)
- 入っている飲み物は何ですか。(複数)
牛乳、野菜、果物、ジュース、麦茶(209人)
清涼飲料水(19.0) 乳酸菌飲料(26.7) コーヒー(3.8)
- 定期健診や、むし歯予防をしてくれる歯科医院を知っている。
知っている(52.1) 知らない(47.9)
- *遊び場として利用したい施設。(複数)
公園(88.5) 園庭(43.3) 学校の運動場(27.0) 市立体育館(6.9)
学校の体育館(5.5) 公民館(4.4) その他(3.4)
- *遊ぶ場所。(複数)
自宅の庭や周り(81.9) 近くの公園(59.2) 園庭(11.8)
空き地(3.3) 寺・神社の境内(4.4) 学校の運動場(3.4)

健康的なライフスタイルを身につけ 健康問題を解決しよう！

保健行動

- 食事はよく噛んで食べている。
よく噛んでいる(24.4) 大体噛んでいる(67.5)
余り噛んでいない(8.1) 噛まずに飲みこむ(0)
- 朝ごはんを食べていますか。
毎日食べる(73.2) 大体毎日食べる(17.9)
あまり食べない(8.1) 殆ど食べない(0.8)
- 家族全員で食事をすることはありますが。
ほぼ毎日(52.8) 週に4~5日(13.0)
週に2~3日(24.4) 週に1回以下(9.8)
- 調理済み食品やインスタント食品の利用。
頻繁に使う(2.5) よく使う(32.0)
あまり使わない(62.3) 使わない(3.3)
- 甘いもの(お菓子やジュース)の味を覚えた時期。
1歳頃(35.0) 2歳頃(45.5) 3歳頃(19.5)
まだ覚えていない(0)
- 保育所、幼稚園から帰って夕食までに、甘い物。
(お菓子、ジュース)を与えている。
よく与える(26.0) 時々与える(48.0)
余り与えない(11.4) 殆ど与えない(7.3)
通っていない(7.3)
- 夕食後〜寝るまでに甘いものを与えている。
よく与える(5.7) 時々与える(36.6)
余り与えない(26.8) 殆ど与えない(30.9)
- 子どもが食べないもの。3群~5人 4群~1人
体を動かす習い事。している(32.5)
- TVを見ている時間。
見せない(2.5)
連続して30分以内(9.8) 1時間以内(40.2)
2時間以内(36.1) 2時間以上(11.5)
- TVゲームで遊んでいる時間。
ゲームがない(46.7) あるがしない(28.3)
連続して30分以内(11.7) 1時間以内(10.8)
1時間以上(2.5)
- 歯科医院に定期健診につれていっている。
はい(27.9) 以前は行った(15.6) いいえ(56.6)
- 定期健診で、してもらったこと。(複数)
フッ素塗布(83.0) シーラント(30.2)
歯磨き指導(56.6) おやつ指導(11.3)
わからない(3.8) 回答無し(3.8)
- *戸外での遊び。
よく遊ぶ(30.0) 時々遊ぶ(45.5)
余り遊ばない(16.6) 殆ど遊ばない(8.2)

環境の整備で健康づくりを

子ども世代

アンケートの結果をMIDORI理論の枠に入れると
こんな風になりました。

子ども世代課題 体力の低下、むし歯
123件 3歳~6歳

めざすゴールのために 取り組むべき健康課題

健康指標・自覚症状

- この1年間で骨折をしたこと。
ある(4.9) ない(95.1)
- 原因は？ 転倒(16.7) 転落(66.7)
ドアに手をはさむ(16.7)
- この1年間で捻挫をしたこと。
ある(2.4) ない(97.6)
- その原因？
転倒(33.3) 転落(33.3)
保育所で寝る中踏まれた(33.3)
- 骨折や捻挫以外に、病院に掛かるような
大きなケガをしたこと。
ある(1.1) ない(98.9)
- その原因は何ですか。
交通事故、火事、壁にぶつかった、
兄弟喧嘩、火傷(各々20.0)
- 排便の状態はいかがですか。
1日1回以上(70.7)
2~3日に1回(25.2) 不規則(4.1)
- 最近の状態についてどう思われますか。
非常に元気(77.2)
まあまあ元気(22.8)
元気ではない(0)
- 歯が痛くなったたり穴のあいたむし歯。
ある(26.8) ない(72.4) 分らない(0.8)
本数(1~13, 2~7, 3~3, 4~3, 5~5)
- むし歯の治療を受けた事がありますか。
あった(46.3) なかった(53.7)
本数(1~12, 2~11, 3~8, 4~5, 5~10)
- 食欲はいかがですか。
旺盛である(24.4) 普通である(65.0)
余り食べない(10.6) 殆ど食べない(0)

めざすゴールは

思い通りのある
あなたがい家庭

GOAL

- この1年間、お子さんと一緒に屋外
で元気いっぱい走り回るような遊
びをしましたか。
よくやった(22.8)
時々やった(54.5)
あまりしなかった(19.5)
ほとんどしなかった(3.3)
- お子さんと心を通ずすゆとりはあ
りますか。
充分ある(22.8)
まあまあある(63.4)
あまりない(13.8)
ほとんどない(0.8)
- むし歯が原因で困ったこと。(複数)
困った事がある(35.0)
- 困った事
ご飯が食べられなかった(1.6)
夜寝られなかった(2.4)
幼稚園・保育所を休んだ(3.3)
治療に時間がかかった(8.9)
治療にお金がかかった(16.3)
連れて行くのが大変(10.6)
その他(8.9)

*は「いきいき子どもプラン」アンケートより
(複数)は複数回答

各世代でめざすゴールと取り組むべき健康課題

ウェルネスおおむた21 ～大牟田市健康づくり推進基本計画～（平成12年度～平成20年度） 健康で心ふれあうまち大牟田の実現をめざして			
こども （乳幼児から中学生） （めざすゴール）	若者 （高校生から30代） （めざすゴール）	壮年 （40代から50代） （めざすゴール）	高齢者 （60歳以上） （めざすゴール）
思いやりのある暖かい家庭 （課題） ・ストレス ・体力の低下 ・むし歯 ・アレルギー	人と人とのふれあいのある地域 （課題） ・よい生活習慣の確立 ・体力の低下 ・未成年者の喫煙、飲酒の増加	生き生きと仕事をし、ゆとりある生活ができる社会 （課題） ・ストレスの増加 ・身体機能の衰え ・生活習慣病の増加 ・噛めない	高齢者が役割を持ち、安心して暮らせるまち （課題） ・生活機能の衰え
※ 網掛けは、最優先課題			

「子ども世代」と「高齢者世代」の健康指標（目標）

今回、基本計画で取り組みの優先順位が高いとされた子ども世代の「むし歯」と「体力」、そして高齢者世代の「体力」と「食べる」という課題について、各種統計データや住民アンケートの結果をもとに「健康づくり事業を実施することで、現在の状況をこの水準まで引き上げます」ということを数値目標というカタチで設定しました。

アンケートの対象となった3～6歳の子ども達と、要支援・要介護状態ではない60～74歳の高齢者について検討しました。

世代	課題	指標	現状	目標
子ども	むし歯	3歳児の1人平均むし歯数	1.9本	1.2本
		・フッ素塗布を受けたことのある3歳児	31.3%	85%
		・1歳6か月で哺乳瓶を使用している	34%	20%
		・甘いものをよく食べる1歳6か月児	42%	25%
子ども	体力	子どもの状態は元気だと思う	100%	現状維持
		・子どもと一緒に屋外で元気いっぱい遊ぶ	77.3%	100%
高齢者	体力	現在、健康だと思う	74.4%	90%
		・日常的に運動をしている	57.9%	74%
	食べる こと	日常の食事を楽しめている人	90.9%	95%
		・みんなで食べる機会をつくる	—	増やす

平成17年度には進捗状況についての経過評価とどの程度効果が出ているのか影響評価を行い、平成20年度に目標達成の結果評価を行います。

健康指標等検討会委員 (平成 13 年度)

【子ども世代】

	氏 名		備 考
体力	林 健一	リーダー	幼児体育指導者
	栗津 英樹		ボーイスカウト
	萩原 清香		小学校PTA
	宮原 淳子		ボランティア
	山田 克子		福祉課 天領保育所
	大藪 利治		消防本部警防課
	近藤 和子		保健予防課
むし歯	松田 宏一	リーダー	歯科医師
	木村 香代子		主任児童委員
	櫻井 ちはる		子育てサークル
	水町 順子		保健予防課
	杉本 志津子		保健予防課

【高齢者世代】

	氏 名		備 考
体力	古賀 真澄	リーダー	健康運動指導士
	野口 竹子		健康づくりグループ
	松藤 サツキ		健康づくりグループ
	山内 研三		運動施設
	中村 宏子		社会福祉協議会
	梅崎 貴美子		高齢サービス課
	中川原 竜一		保険年金課
	村中 真澄		市立総合病院医事課
	川口 祐一郎		保健予防課
食 べ る こ と	坂井 シナエ	リーダー	J Aみなみ筑後
	小西 和子		ボランティア
	汐待 律子		白バラ学級
	松永 伸子		食生活改善推進員
	宿利 周子		介護保険課
	坂井 久五		保健予防課
	徳川 昭彦		保健予防課

【事務局およびアドバイザー】

	氏 名		備 考
事務局	山形 秀昭	事務吏員	保健予防課健康推進担当
〃	野口 和枝	保健師	保健予防課健康推進担当
アドバイザー	中村 譲治	歯科医師	NPO 法人 ウェル・ビーイング
〃	岩井 梢		NPO 法人 ウェル・ビーイング

子ども世代：むし歯グループ事業案（一部）

事業名	何を (伝える内容)	いつ	誰に (対象者)	どこで (場所)	備考
フッ素塗布実施医療機関一覧作成	フッ素塗布実施医療機関名簿 (住所, 電話, 料金, 実施時間)	随時	市民	保健所等	歯科医師会への情報提供依頼
フッ素塗布券	育児のしおりにフッ素塗布券を付ける。	保健所のフッ素塗布	保護者	保健所	
フッ素塗布記録の一貫性	「育児のしおり」に記録する。 (「育児のしおり」の記録欄を充実させる。)	保健所や医療機関でのフッ素塗布	フッ素塗布をした人	保健所 歯科医院	歯科医師会への記録依頼
保育所の歯の健康教育	フッ素についての基礎知識	夕方5時以降	保護者	保育所	夜に健康教育を希望する保育所の把握

子ども世代：体力グループ事業案（一部）

事業名	何を (伝える内容)	いつ	誰に (対象者)	どこで (場所)	備考
ワイワイ遊び塾	安心して遊べる場所・遊びに慣れる・いろいろな遊びの方法を学ぶ・親子で日常的に身近な場所で、いろいろな遊びができる・遊びの楽しさ世代間交流・遊びの中でルールを学ぶ・親子とのコミュニケーションができる・親が子どもの能力を発見する	土曜日の午前中 (年48回) (季節感を感じて外で遊ぶ) 夏休み 冬休み 春休み	保護者と子ども (母親と幼児、父親と幼児、祖父母と孫)	近くの公園 プール 海・川 学校の運動場 保育所・幼稚園の園庭 地区公民館	登録者へのパスポート発行及び傷害保険への加入参加者は登録料を負担 大きな公園から始めて、歩いていけるような身近な場所に広げていく。 【キャッチフレーズ】 お外大好き・お外に出よう大蛇っ子・元気っ子 パスポート持って公園へ
遊びリーダー(ワイワイ遊び塾ボランティア)養成講座	ワイワイ遊び塾の主旨 伝承遊び 安全に遊ばせる方法 救命救急法	月1回	市民 (誰でも)	市民体育館 地区公民館 公園 プール、川、海	
ワイワイ遊び塾実行委員会	ワイワイ遊び塾の企画、運営、広報 遊びリーダー公募 協力ボランティア団体公募 施設開放の公募	月1回	市民 幼稚園 保育所 育児サークル 体育協会 民間スポーツ施設 医師会		公募市民と当事者が主体となり、専門家は相談役的立場で参加する。
【既存事業】 街区公園の整備	人がいる公園 いろんな年齢の人が遊べる 身近にある 安全性				

高齢者世代：体力グループ事業案（一部）

事業名	何を (伝える内容)	いつ	誰に (対象者)	どこで (場所)	備考
介護予防指導者養成コース	地域ボランティア活動の中心になる人を育成（有料）	年1回	市民		生涯青春大学リーダー養成などと合わせて年間20人程度「リーダー」を増やす。
地域リーダーの育成	地域ボランティア活動の中心になる人を育成		町内公民館連絡協議会・体育指導員・食生活改善推進員協議会など既成組織		〃
学校プールの活用	地域でのプール活用 水中エアロビクス	7月、8月	地域住民	校区（モデル校区）	実施前に対象地域でアンケートを行い、住民のニーズを確認
【既存事業】 生涯青春大学運動リーダー養成事業	地域ボランティア活動の中心になる人を育成		生涯青春大学受講生	地区公民館	その他リーダー育成事業と合わせて年間20人を目標。市立総合病院からの講師派遣も検討
【既存事業】 総合相談窓口の増強	総合相談窓口の増強		市立総合病院来院者	市立総合病院	来院者だけでなく、それ以外の人も相談できる環境の整備

高齢者世代：食べることグループ事業案（一部）

事業名	何を (伝える内容)	いつ	誰に (対象者)	どこで (場所)	備考
世代間料理創作教室	料理をすることの楽しさと世代間交流を体験する。	小学校の家庭科の時間 中・高校生のクラブ活動時間	小学生 高齢者 中学・高校の料理部	小学校 中学校 高校	材料費負担
幼児食教室	幼児食教室に高齢者を講師や保育者として依頼し、昔の幼児食等の食文化を保護者といっしょに調理することにより世代間交流等を図る。	幼児食教室	高齢者	地区公民館	材料費負担
高齢者のための食・楽・縁教室	楽しく食事をするための知恵や工夫をテーマにした講座 これまで単独で行っていた陶芸、料理等の講座を統合したかたちで教室を開催する。・野菜づくりの知識と楽しさ・野菜の調理法・器づくり（陶芸）・器に盛る楽しさ・音楽による雰囲気づくり・世代間交流	月1回を10～12回 で1コースとする	市民	地区公民館 遊休農地 市民農園	
シルバー喫茶、 シルバーレストラン等の設置	高齢者が気軽に入れる喫茶店、レストラン等を設け、高齢者が楽しい食事と時間を過ごせる場所を身近に提供する。 空店舗等の活用 高齢者の嗜好に合う食事の提供	常時	市民	飲食店 空店舗	

推進体制

「ウエルネスおおむた21～大牟田市健康づくり推進基本計画～」に基づく推進計画を実効あるものとするためには、計画策定後の体制づくりについても、ヘルスプロモーションの概念のもと、なお一層の住民参画を推進する必要があります。

こうした体制を整備することにより、本市が目指す住民参加の推進が図られ、住民と行政が一緒になって、目標を達成するための条件と、その条件を達成するためのそれぞれの役割を考えていきます。また、地域の社会資源を積極的に取り入れ、連携・活用することも視野に入れ、事業を実施していきます。

◆具体的な推進体制等について

1. 目的

「ウエルネスおおむた21～大牟田市健康づくり推進基本計画～」に基づく推進計画の確実かつ計画的な実施に向けた推進を図る。

2. 名称

仮称：ウエルネスおおむた推進会議（以下「推進会議」という）

通称（仮称）：プロジェクトW（WはWellnessのW）

3. 体制

（1）委員構成

①庁内委員

ア 推進計画に掲げた事業等に関連する課の職員

イ 住民の健康づくりに関心があり、かつ、積極的に参画できる職員を公募

ウ その他推進にあたって必要な職員

②住民委員

ア 推進計画に掲げた事業等を進める上で関連のある団体、組織、グループ等

イ ボランティアグループ

ウ 基本計画及び推進計画策定に携わった住民

エ 住民の健康づくりに関心があり、かつ、積極的に参画できる住民を公募

オ マチづくり実践団体

カ その他推進にあたって必要な住民

③アドバイザー（必要に応じて参画）

特に専門的知識を必要とする場合に要請する。

（2）任期

原則1年（4月1日～翌年3月31日）で再任可（1年毎に意思確認）

（3）分科会

推進会議全体の会議は総合的な検討等を行う場とし、必要に応じて世代別、課題別あるいは事業別など事業実施に向け分科会を設ける。

（4）事務局

大牟田市保健予防課内に事務局を置く。

4. 役割

（1）行政が行っている事業への推進計画に基づいた働きかけ

行政が行う事業のうち、推進計画に基づいた事業の展開が図られると考えられるものについて、関係課に協議と依頼を行うとともに、必要に応じて事業への参画を図る。

（2）地域で行われている行事への推進計画に基づいた働きかけ

地域で行われている行事のうち、推進計画に基づいた目標の達成につながると考えられるものについて、協議と依頼を行うとともに必要に応じて行事への参画を図る。

（3）働きかけた事業等の進捗状況確認と評価

（1）及び（2）等で働きかけた事業等の進捗状況の確認と評価を行うとともに、目標に近づいているかどうかを分析する。

（4）予算案作成段階における事業検討と関係各課との協議

行政が行う事業の予算案作成段階で、推進計画に基づいた事業の展開が図られると考えられるものについて関係各課との協議を図り、予算案に反映できるよう働きかけを行う。